



辺野古で政府は和解に応じた

沖縄県名護市辺野古の米軍の新基地建設をめぐる政府と沖縄県の裁判で政府は和解案を受け容れた。

政府側に勝ち目はない。県民の反対も強い。それなら裁判で負けるより「取り敢えず和解」ということか。裏に何とか手を回そうというのが安倍自公政権のつもりか。

普天間の危険除去？

普天間基地は宜野湾市の真ん中にある。二〇〇四年には沖縄国際大学にヘリが墜落。日本人の住宅をかすめるように飛び交うヘリ、オスプレイは危険極まりない。

政府もこの普天間基地は危険と認識せざるを得なくなり「普天間の危険を除く為に辺野古に基地を作る」と云う。

しかし、この議論はおかしくないか？もし、崩れそうな崖の上の家があったとしても。その家は使用禁止。他に住む所を探す。

普天間が危険なら、まず、飛行停止だ。「それでは困る」と云うなら、先ず「海兵隊の基地が日本に必要なかどうか」議論すべき。もし、本当に必要なら、日本のどこに作るかを議論すれば良い。辺野古ありきではなく。

飛行停止にしないで「普天間は危険」と云うのは沖縄県民は危険な目にあわせたまま、辺野古に新基地を作るための口実ではないか？

現に、米軍は、普天間基地の北西側にある米軍住宅上空を飛行禁止にし、日本人の住宅の上を飛んでいる。みなさんはどう思われますか？

満潮の大岡川

横浜市中区宮川橋 二〇一六年三月



宮川橋のたもと、大岡川の右岸。ここから大岡川の河口まで僅か七、八百メートル。満潮に向け潮がどんどん川を遡って来る。

やがて、満潮になると潮の流れが止まる。川面は鏡のように辺りの景色を写す。

対岸は野毛界限。夕暮れともなるとサラリーマン達が連れ立って暖簾をくぐる。

河岸にはホテルやマンションが幾つも建っている。それが川面に映るのが面白くてスケッチを始めた。

すると間もなく「いちに、いちに」のかけ声。帆船日本丸の海洋教室の小学生達が漕ぐカッターが何隻もやってきた。忽ち、川面のキャンバスは消え失せてしまった。

あきらめて待つこと十数分。波も静まり、鏡が復活。